

一 般 外 科

科目責任者 青 木 琢
学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

外科学は各臓器に発生する疾患に対し手術を主体とし、さらに化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療に取り組む治療学である。特に近年の外科学の進歩は目覚ましく、細分化され、高度な技能と知識が要求されている。各臓器に発生した疾患を治すには、その臓器の形態や機能を把握したうえで、その疾患の病因・病態を理解し、どのような外科的治療が最適か、さらにどのように化学療法、放射線療法を組み合わせていかなければならないか判断が要求される。すなわち、外科学には幅広い知識に基づいた総合的治療体系の理解が必要となる。

学生諸君にはこれから外科学を学ぶにあたり、総合的知識の習得を目指した勉強をしてもらいたい。一般外科学では各論に入る前の基本的な事項を取り扱っている。これらの知識は救急を含む日常臨床に役立つものであり、各臓器別に疾患と治療を学ぶ上で不可欠のものである。一般外科でしか、学ぶことがない疾患も多く含まれているので十分理解・習得してもらいたい。

II. 担当教員

教授	青 木 琢	外科学 (肝・胆・膵)
准教授	森 昭 三	外科学 (肝・胆・膵)
准教授	中 島 政 信	外科学 (上部消化管)
准教授	森 田 信 司	外科学 (上部消化管)
准教授	石 塚 満	外科学 (下部消化管)
教授	中 川 剛 士	乳腺センター

III. 一般学習目標

近代外科学の発展に寄与した人物の功績、外科代謝と栄養管理、生体反応、基本的手術手技、各種疾患に対する診断と治療等を学び、日常臨床に必要な基本的知識の習得を目標とする。

IV. 学修の到達目標

- 1) 近代外科学の進歩に貢献した人物の功績を理解し、新たな方向性を考える能力を身につける。
- 2) 外科の代謝と栄養管理、滅菌法、消毒法、基本的手術手技について学ぶ。
- 3) 各種病態における手術侵襲に対する生体反応と周術期管理について学ぶ。
- 4) 乳腺疾患、急性腹症など各種外科疾患の診断と治療について学ぶ。
- 5) 臓器移植の基本的理解とその現状について学ぶ。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	28	火	1	近代外科学の発展・臓器移植	肝・胆・膵外科 青 木 琢	1
2		28	火	2	成人, 高齢者の外科代謝と栄養管理	肝・胆・膵外科 森 昭 三	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
3		28	火	3	急性腹症の診断と治療	上部消化管外科 中 島 政 信	1
4		28	火	5	基本的な外科手術手技, 滅菌法と消毒法, 内視鏡外科手術	上部消化管外科 森 田 信 司	1
5		30	木	3	医学英語Ⅲ (一般外科)	肝・胆・膵外科 青 木 琢	1
6		30	木	6	乳腺疾患の診断と治療	乳腺センター 中 川 剛 士	1
7	5	1	金	3	炎症・外傷・熱傷の診断と治療	下部消化管外科 石 塚 満	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。

原則試験100% (出席状況および講義出席回数も考慮する。)

なお, 定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しない。

参考書: 標準外科学 (第15版)

医学書院新臨床外科学 (第4版) 医学書院

VIII. 質問への対応方法

- 1) 随時, 受け付ける。ただし, 事前に秘書を通じアポイントをとること。
- 2) 原則として, 試験日の1週間前からは受け付けない。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎: 最も重点を置く DP ○: 重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養, 利他の精神, 医師に求められる品格を身につけ, 豊かな人間性を育み, 他の医療者と協調して, 多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び, 情報・科学技術を活用して, 生涯にわたって自ら問題を発見し, 解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と, その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し, 課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み, 医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

試験の結果を講評・解説します。

XI. 求められる事前学習, 事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載あり。なお, シラバス別冊に記載が無い場合, 要点を確認しておくこと。(所要時間の目安20分)

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-04-15, PS-01-04-16, PS-01-04-17, PS-02-13-01, PS-02-13-02, PS-02-13-03, PS-02-13-04,
PS-02-13-05, PS-02-14-01, PS-02-14-02, PS-03-05-12, PS-03-05-13, PS-03-05-14, PS-03-05-16,
CS-02-02-01, CS-02-02-02, CS-02-02-03, CS-02-02-04, CS-02-03-01, CS-02-04-01, CS-02-04-35,
CS-02-04-41, CS-02-04-43, CS-02-04-44, CS-03-02-01, SO-04-05-01